

体験を通して

体験後の子供たちの感想を、ご紹介します。

- これから人が目の前で倒れいたら救急（車）が来るまで正しい手順で処置をして、その人を助けられるようになりたい。
 - 自分ができることが少しでも増え、「私の行動で1人でも多く助かるといいな。」と思いました。
 - 自分の町のAEDのある所（その場所）などをしっかり確認し、いざという時のための備えをした方がよいと思いました。
 - 近くのどこにAEDあるのかをしっかり調べて覚えておきたいなと思いました。
 - もし、周りに大人がいれば胸骨圧迫の他にも救急車を呼んだり、AEDをもってきたりもできるので、その時にあわせて自分にできることをやりたいと思います。
 - 実際に（救急事態が）起こった時には、冷静に周りの人と協力しながら取り組もうと思います。特にぼくは、行動に制限があるので、他の人にひきわたしながら救命しようと思います。絶叫で近所の人を呼んで手伝ってもらいます。
 - 実際に、このようなこと（救急）が起きてしまったら積極的に救助に参加するのも大事だけど、自分たちは大人の人を呼んだり救急車を呼ぶなどの助けをすると、大人の人にとってもいい援助になると思いました。

強く、早く、絶え間なく



胸骨の場所を教えていただいてます

菅原署員

梶原署員

宣田署員

1月25日(火)2・3校時に5・6年生が、救命救急講習会を行いました。南三陸消防署の畠田署員、梶原署員、菅原署員の3名が来校して3グループに分かれ傷病者の発見から心臓マッサージの実技訓練を一人一人が体験しました。この講習会は、今年度で5年連続で少年消防クラブの活動として行われています。署員の皆さんからは講義と実技を通して「命を助ける意味を考えるきっかけにしてほしい。」「(消防署と学校が)よりよい関係性を深める活動としていきたい。」という言葉をいただきました。少年消防クラブの活動と消防署との交流を通して防災意識を高めさせていきます。

「命のバトン」をつなぐため

第41号
発行元
入谷小CS推進
委員会編集部



上手に染まった？

洗净，去蒂，去杂质，洗净，备用。

訓練の重要性を実感!!



11

九 標題單

音頻調節



さすまちを佳て実際に犯人役をおさしません

切られたりしていまし
た。最後には、相手との
距離を上手に取りなが
ら不審者を追い込み取
り押さえる仕方を署員
の方に教えていただきま
した。職員は、1年に1
回は必要な訓練だと実
感していたようでした。